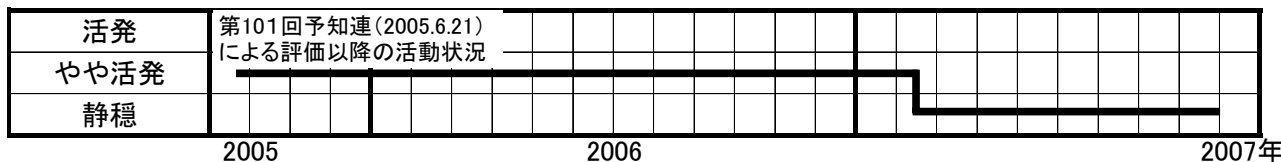


# 十 勝 岳

## ○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。



## ○ 概況

### ・ 噴煙及び熱活動 (図 2～図 5)

62-2 火口の噴煙の高さは概ね 100m 以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

11～13 日に実施した現地調査では、赤外熱映像装置<sup>1)</sup>により測定した 62-2 火口の温度は約 170℃(測定距離約 150m)で、前回(2007 年 6 月:約 170℃)と比較して変化はありませんでした。

大正火口や 62-2 火口周辺のその他の火口の状況や地表面温度の分布は前回(2007 年 6 月)と比べて特段の変化は見られませんでした。

1)赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

### ・ 地震活動 (図 2、図 6、表 1)

火山性地震は、1 日あたり 0～2 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

### ・ 地殻変動 (図 7～図 10)

8 月 17 日～8 月 21 日及び 9 月 11 日～9 月 13 日にかけて山頂部の 62-2 火口周辺で GPS 繰り返し観測を実施しました。2007 年 6 月に、62-2 火口浅部のわずかな膨張を示すと考えられる基線の伸びが認められましたが、その後は膨張が継続している傾向は認められません。

山腹での GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

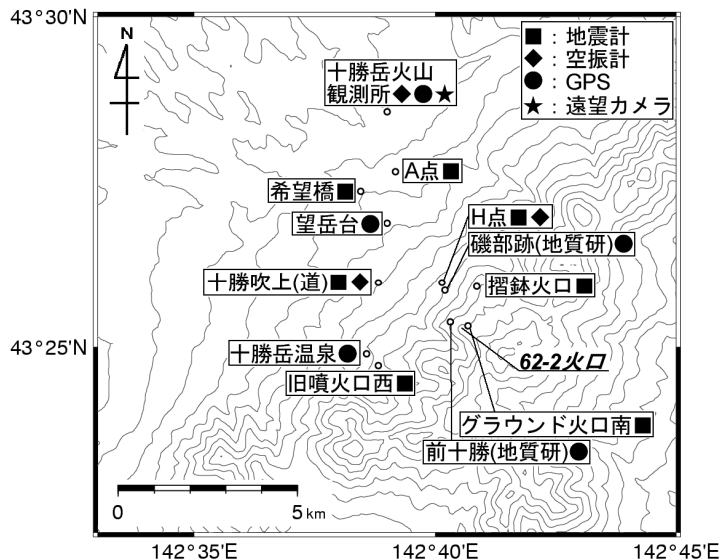


図 1 十勝岳 火山観測点配置図

※ 資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 平 17 総使、第 503 号)。

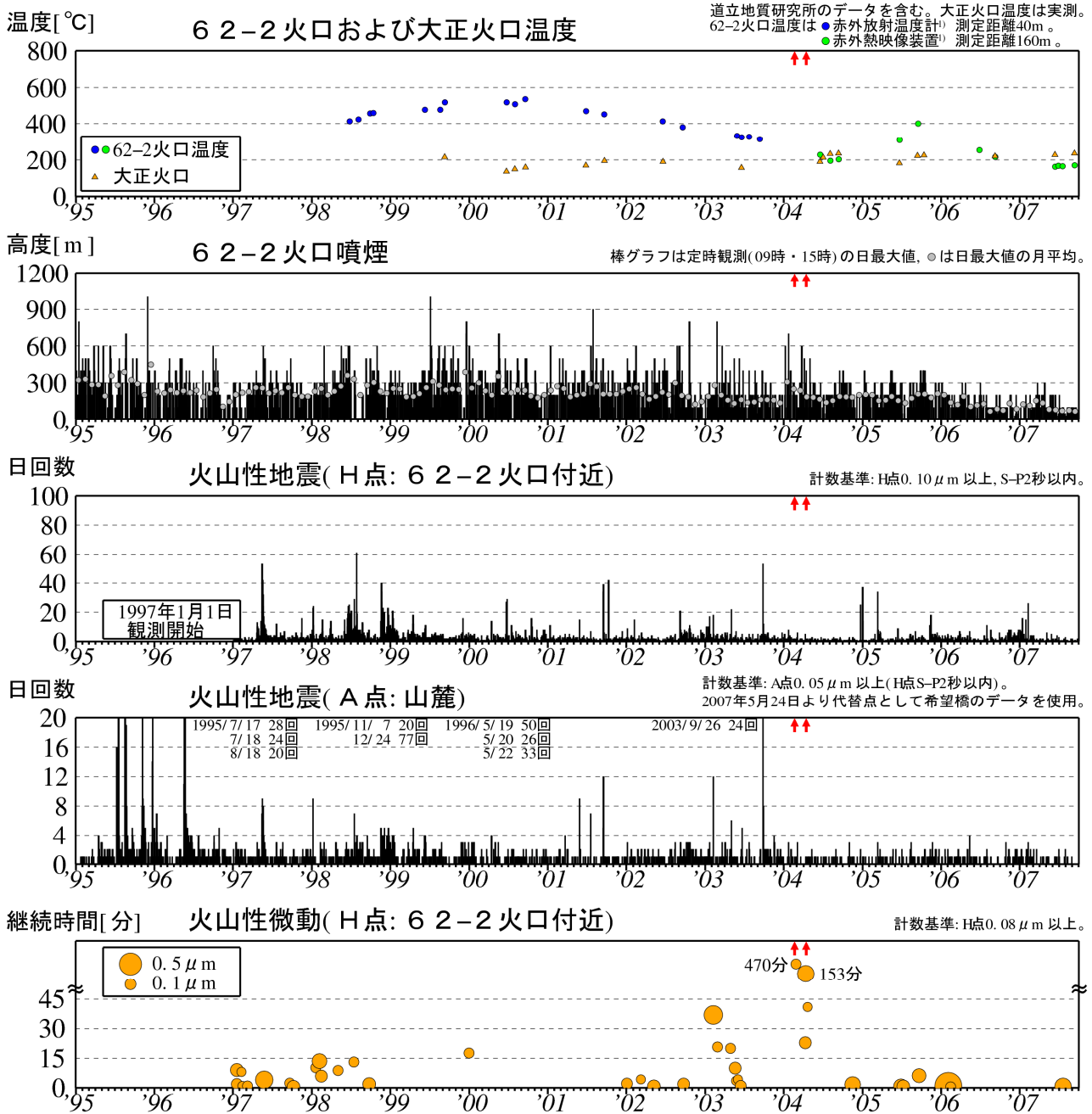


図 2※ 十勝岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 9 月) ↑印はごく小規模な噴火

- ・62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状況が続いていましたが、2006 年 1 月以降低下傾向が見られます。
- ・地震活動は 1999 年後半から比較的静穏に経過しています。
- ・2007 年 7 月 19 日に、振幅の小さな火山性微動が発生しました。

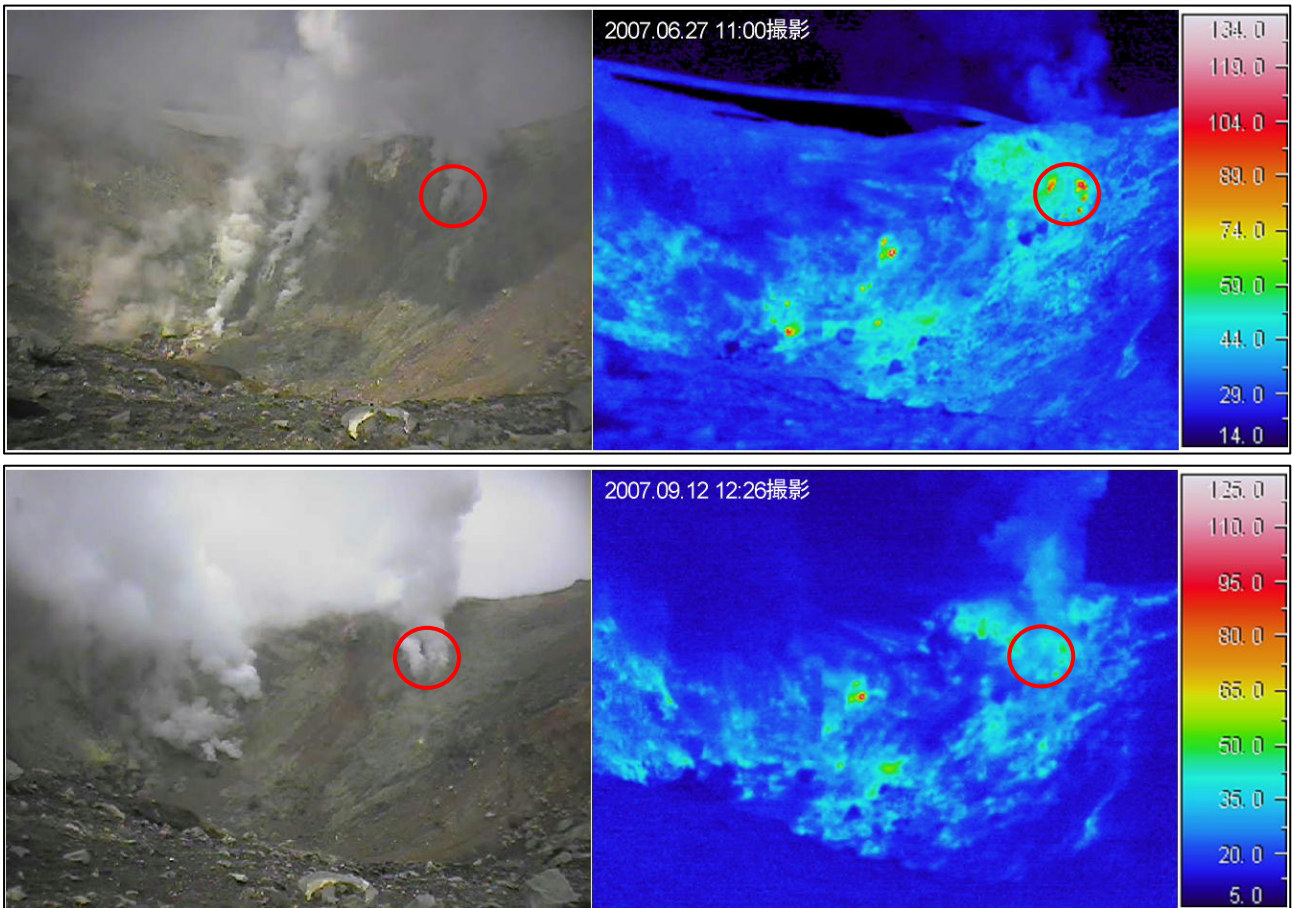


図3 十勝岳 赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による62-2火口内の表面温度分布 ○：北側内壁の噴気孔  
(上段：2007年6月27日、下段：2007年9月12日 図5 ■から撮影)

- ・62-2火口からは北側内壁の噴気孔などから噴気が噴出していました。火口縁では強い二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)臭が認められました。
- ・赤外熱映像装置<sup>1)</sup>により測定した62-2火口の温度は約170℃(測定距離約150m)で、前回(2007年6月:約170℃)と比較して変化はなく、2005年秋以降の低下傾向が継続していました。



図4 十勝岳 大正火口(2007年9月11日撮影)

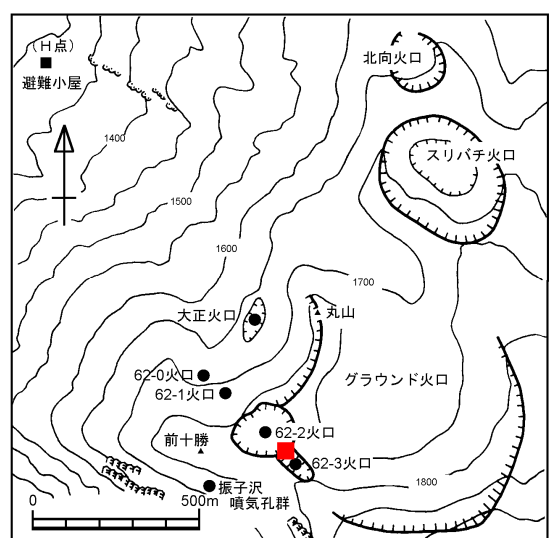


図5 十勝岳 火口周辺図

- ・大正火口やその他の火口では前回(2007年6月)と比較して特段の変化はありませんでした。

表 1 十勝岳 地震・微動の月回数 (H点：山頂付近 [図 6 TOKH] A点：山麓点 [図 6 TOKA])

2006 年～2007 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
H点地震回数	32	83	76	90	54	23	15	23	19	10	7	8
A点地震回数*	4	6	8	9	12	5	4	5	6	4	2	0
H点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

\*地震観測点 A 点は近傍での工事のため 2007 年 5 月 24 日より代替点として希望橋 [図 6KBBS] のデータを使用しています。

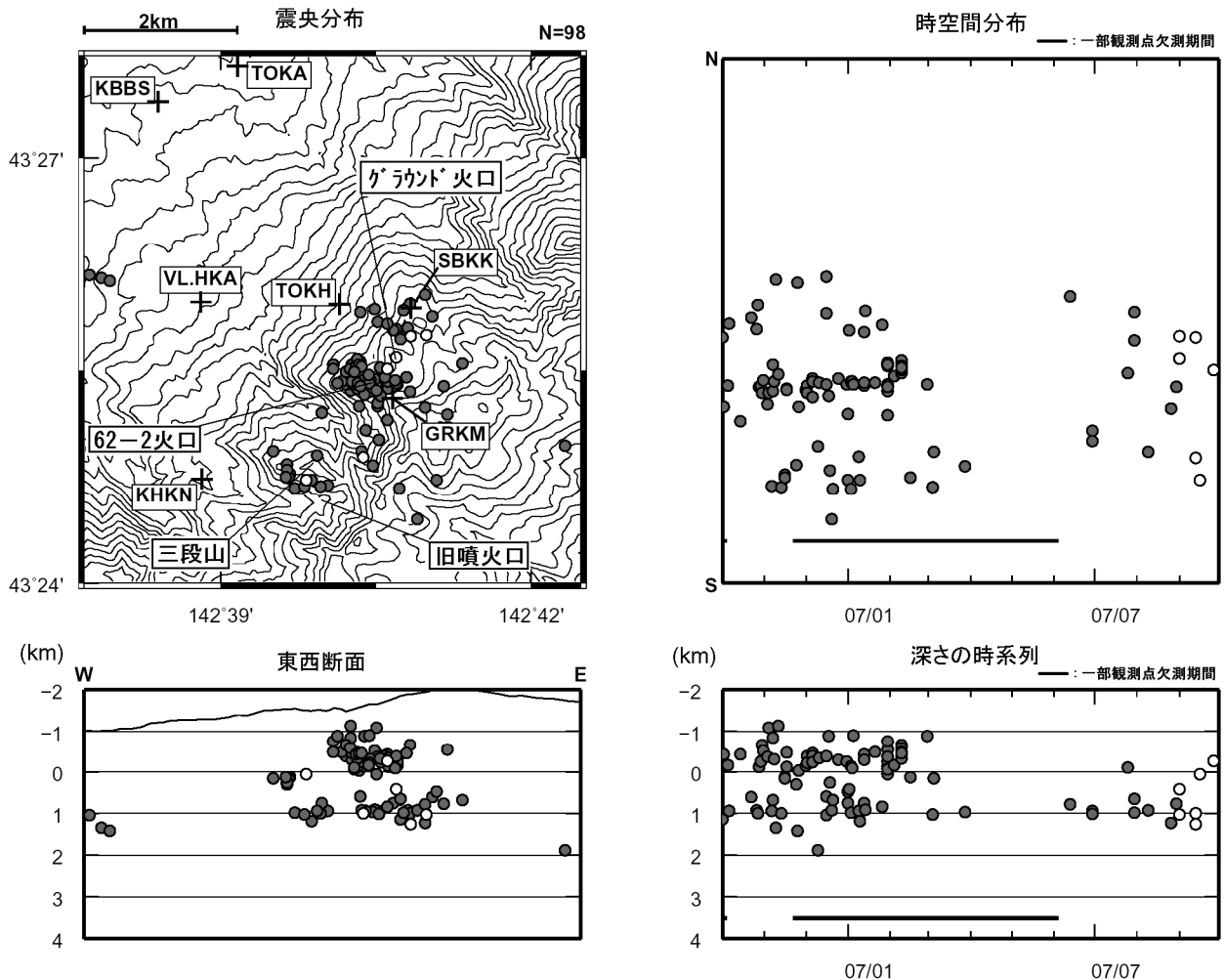


図 6※ 十勝岳の震源分布図 (2006 年 10 月～2007 年 9 月、+は地震観測点)

表示期間中、2006 年 11 月 22 日～2007 年 6 月 4 日の期間は、一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

○印は今期間 (2007 年 9 月) の震源

●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2006 年 10 月～2007 年 8 月) の震源

・前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所 (山頂から深さ 1～3km 付近) に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源も、お概ねこの領域内に分布しています。

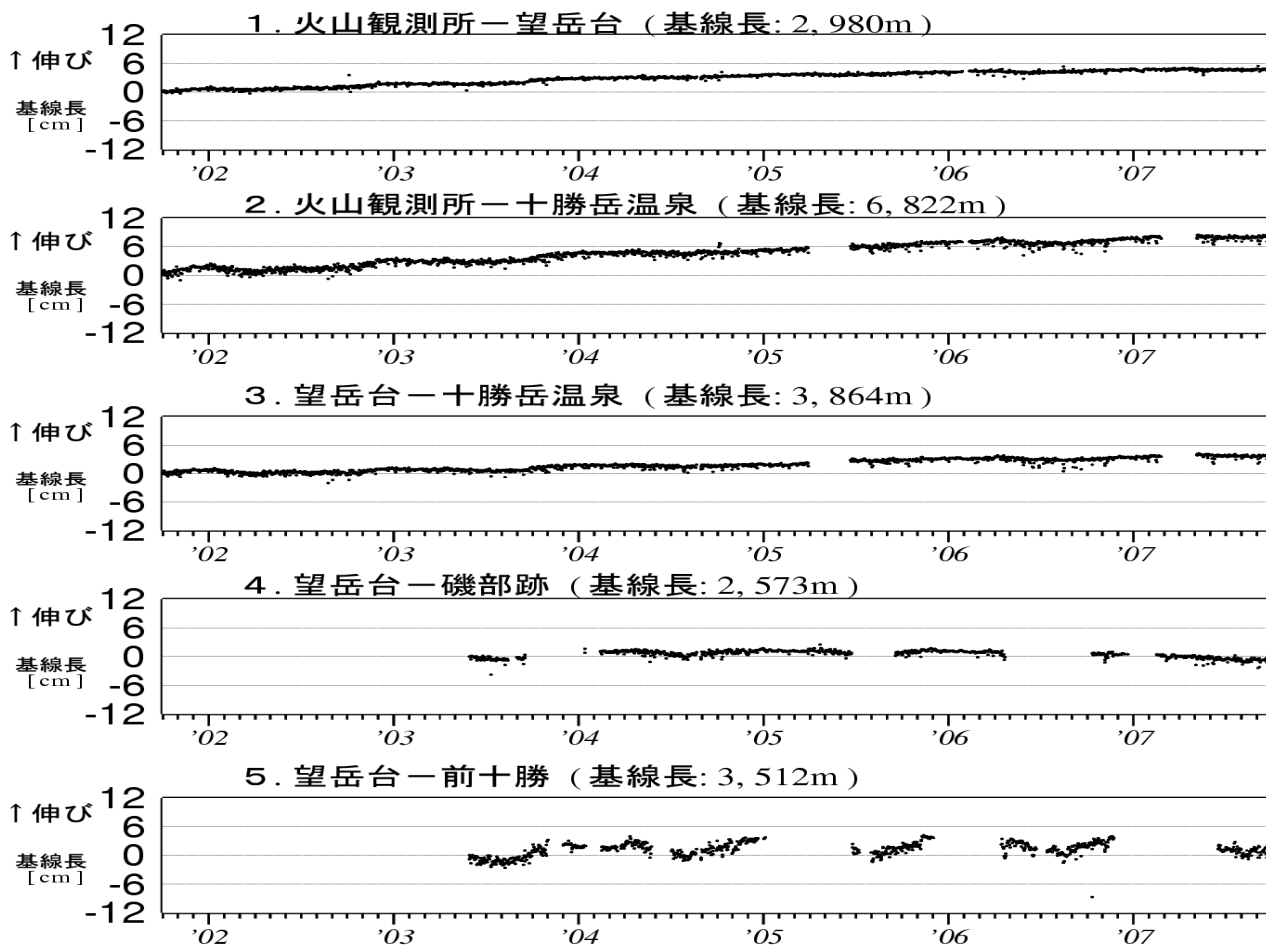


図 7※ 十勝岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月~2007 年 9 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図 7 の 1~5 は、図 8 の GPS 基線①~⑤に対応しています。

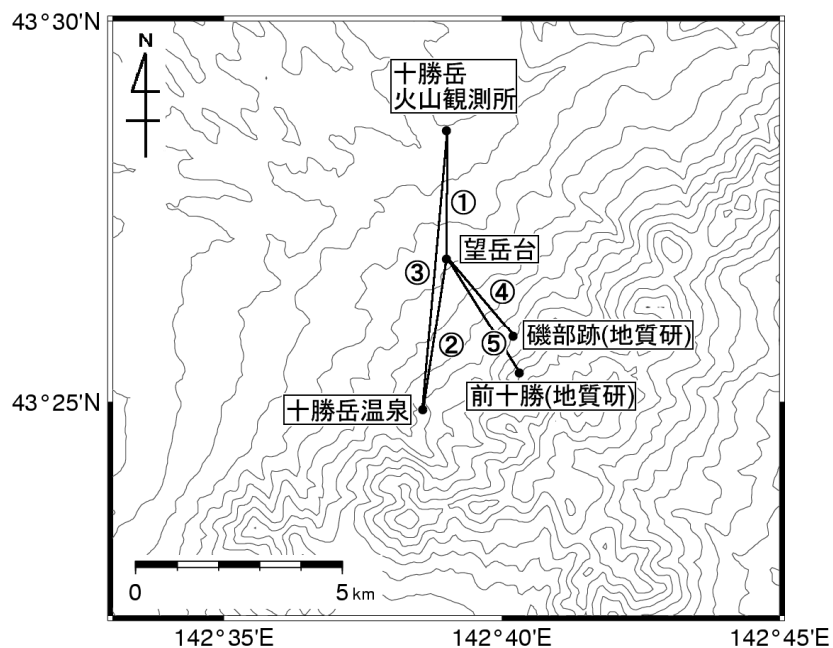


図 8 十勝岳 GPS 観測点配置図

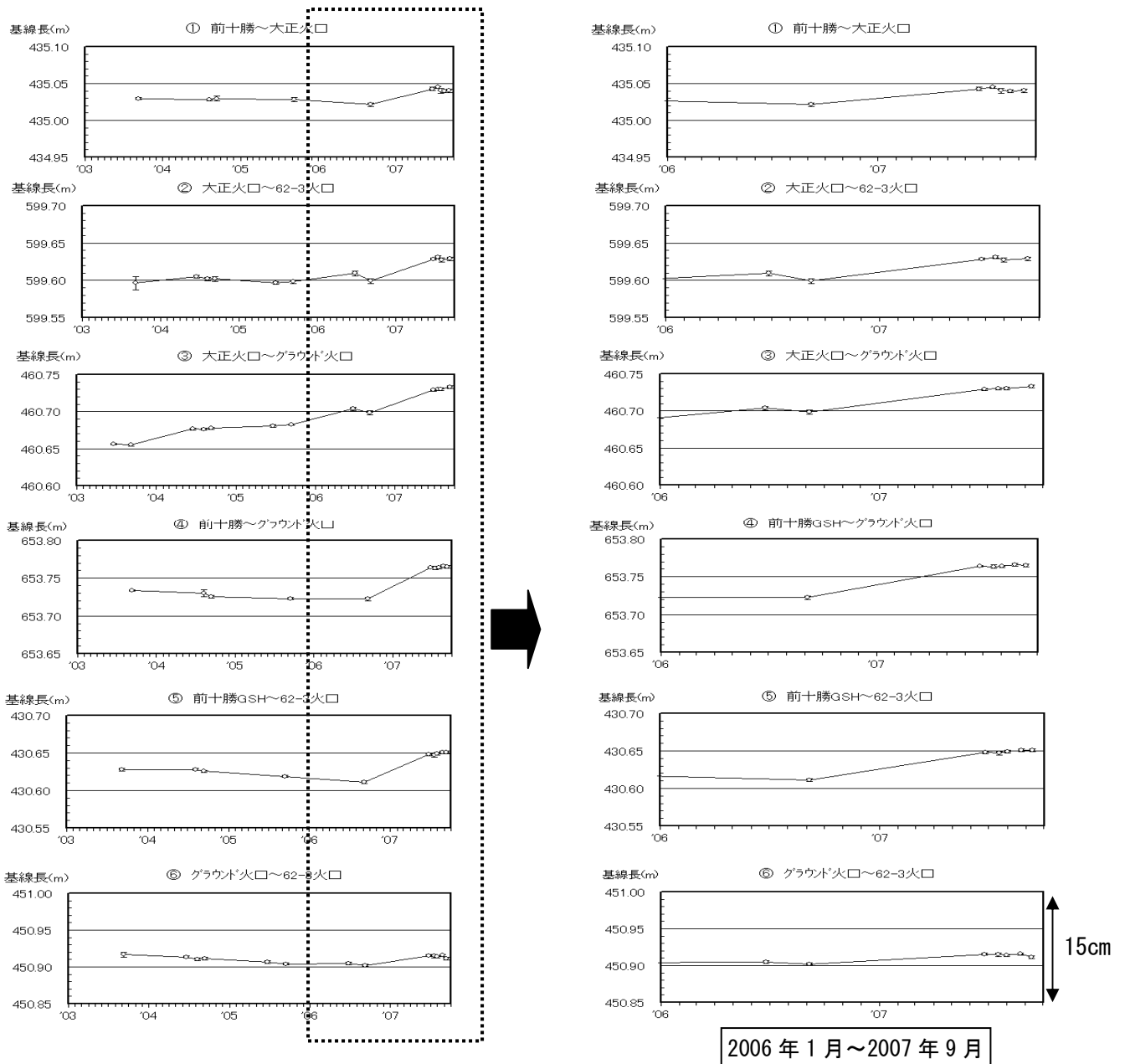


図 9※ 十勝岳 GPS 繰り返し観測による基線長変化

左列は 2003 年 6 月～2007 年 9 月までの基線長変化図、右列は 2006 年 1 月～2007 年 9 月の期間を抜粋した図です。図 9 の①～⑥は、図 10 の GPS 基線①～⑥に対応しています。

・8 月 17 日～8 月 21 日及び 9 月 11 日～9 月 13 日にかけて山頂部の 62-2 火口周辺での GPS 繰り返し観測を実施しました。2007 年 6 月に 62-2 火口浅部のわずかな膨張を示すと考えられる基線の伸びが認められましたが、その後は膨張が継続している傾向は認められません。

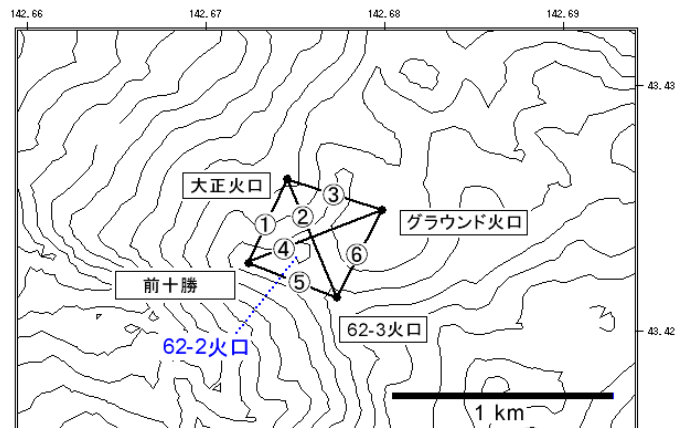


図 10 十勝岳 山頂 GPS 繰り返し観測点配置図